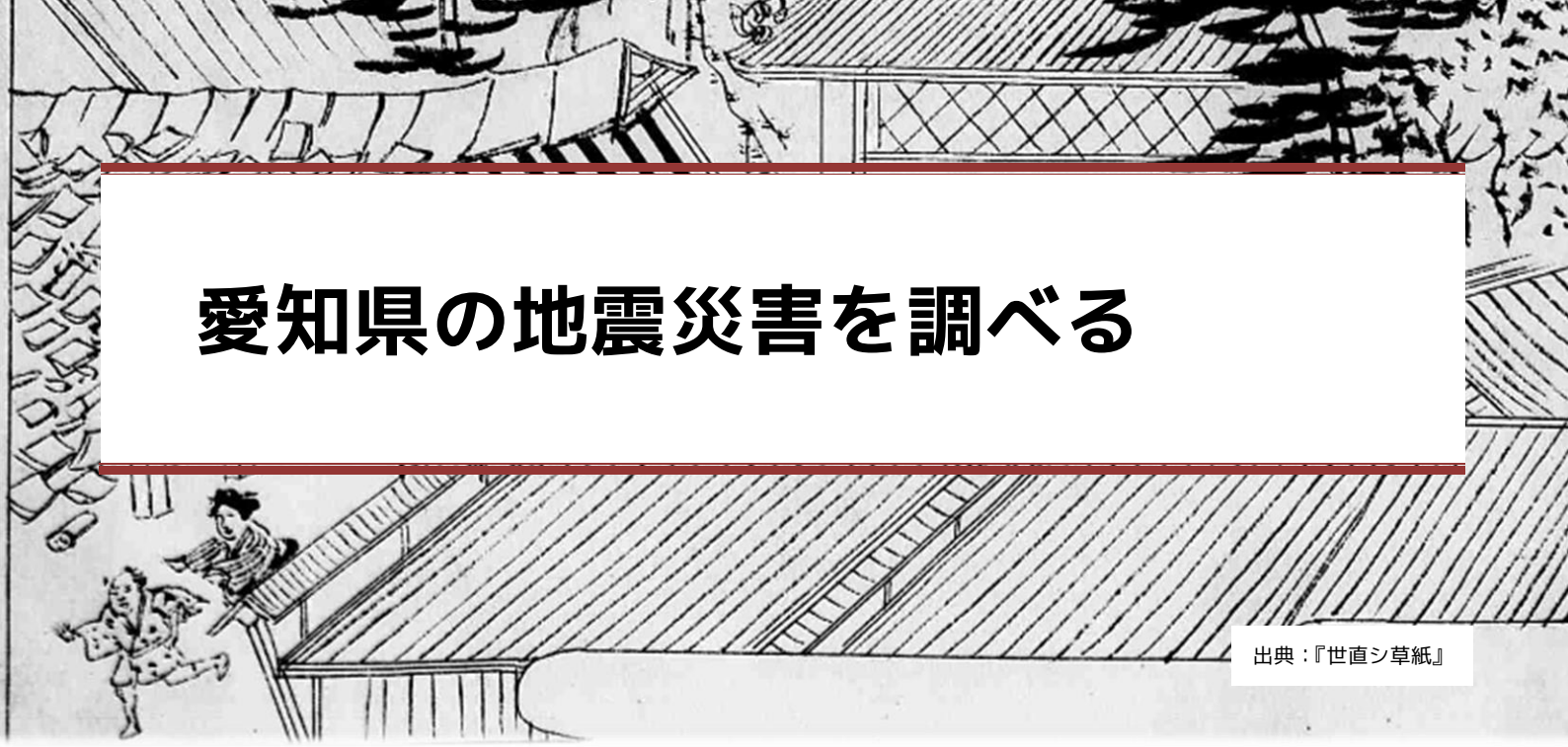

出典：『世直シ草紙』

愛知県の地震災害を調べる

東海地方に巨大地震発生の恐れがあるといわれています。過去の地震について知ることは防災につながっていきます。そのための基本的な調べ方や資料を中心にご紹介します。

0. 日本における基本的な地震資料　　1. 愛知県の地震の歴史を調べる
2. 愛知県の個々の地震を調べる　　3. 全国の地震の歴史を調べる

📖：図書　🌐：インターネット

0．日本における基本的な地震資料

📖『大日本地震史料』　震災予防調査会／編　丸善　1904 年　1973 年復刻

古代からの地震が年代順に収録され、各々の地震について、その根拠となる史料がわかるようになっています。地震史料集として最初に出版された資料です。

📖『日本地震史料　復刻』全 4 巻　文部省震災予防評議会／編　明石書店　2012 年　☞

『大日本地震史料』の発行後、約 6400 もの史料を追加し、『増訂大日本地震史料　第 1～3 巻』（当館未所蔵）が出版され、その後、第 4 巻にあたる『日本地震史料』も出版されました。この 4 冊を合わせて復刻した資料です。

📖『新収日本地震史料』全 21 巻　東京大学地震研究所／編　東京大学　1981 年-1994 年　☞

『日本地震史料　復刻』に収録されている情報をできるだけ採録し、新しく発見された史料が追加されています。

📖『「日本の歴史地震史料」拾遺』全 8 巻　宇佐美竜夫／編　日本電気協会　1998 年-2012 年　☞

『新収日本地震史料』の発行後、新しく発見された史料が追加されています。

！すべてを網羅している資料はなく、ひとつの歴史地震を調べるにも、☞の資料を見る必要があります。

1．愛知県の地震の歴史を調べる

📖『愛知県災害誌』『愛知県災害誌　昭和 45-55 編』『愛知県災害誌　昭和 56 年-平成 3 年編』

愛知県総務部消防防災課／編　愛知県　1970、1982、1993 年

701 年から 1991 年までに愛知県で発生した災害（地震・風水害など）の記録です。とくに、📖『愛知県災害誌』は、715 年以降に発生した地震について、根拠となる文献がわかるようになっています。

📖『災害の記録』　愛知県防災局災害対策課／編　愛知県防災局災害対策課　年刊（1970 年-）

「愛知県における震度 3 以上を観測した地震」「愛知県内における月別・震度別地震回数」の記載があります。

📖『愛知県地震概況』　名古屋市地方気象台　［雑誌・月刊］

［誌名変遷：1956 年 3 月-2000 年 3 月『愛知県気象月報』→2000 年 4 月-2003 年 5 月『愛知県の気象概況』→2003 年 6 月-2017 年 2 月『愛知県の気象・地震概況』→2017 年 3 月-2018 年 12 月『愛知県地震概報』→2019 年 1 月『愛知県地震概況』］

愛知県内で発生した震度 1 以上の地震について記載されています。インターネットで見ることもできます。

「名古屋地方気象台」（https://www.jma-net.go.jp/nagoya/）

📖『過去の災害から学ぶ名古屋　あなたの街が教えてくれること』

名古屋市防災危機管理局危機対策室／編集　名古屋市　2017 年

名古屋市内の各区ごとに、土地の成り立ちや地震災害・風水害の歴史がまとめられています。

2．愛知県個々の地震を調べる

2-1．　江戸期まで

📖『明応地震・天正地震・宝永地震・安政地震の震害と震度分布』

飯田汲事／著　愛知県防災会議　1979 年

明応地震・天正地震・宝永地震・安政地震について、震度分布図などそれぞれの詳しい情報の記載があります。📖『愛知県災害誌』の発行後にわかった新しい情報を収録した「愛知県における被害地震年表」の記載があります。この年表では被害状況が尾張地方と三河地方に区分されています。

📖『愛知県史　資料編１５』　愛知県史編さん委員会／編集　愛知県　2014 年

文政 2 年 6 月の地震について書かれた『世直し草紙』（猿猴庵著）など、江戸期の地震に関する史料の翻刻が掲載されています。わずかですが、それらの史料の解説もあります。

◇◆鶴舞中央図書館特別集書にみる地震の記録◆◇

鶴舞中央図書館が所蔵する特別集書には、地震の記述がある資料があります。それらの資料を一覧にしました。別紙『特別集書にみる愛知県の歴史地震』をご覧ください。

2-2.　明治期以降

この地方を襲った大きな地震は、濃尾地震・東南海地震・三河地震です。

◎濃尾地震（1891 年 10 月 28 日）

📖『濃尾地震文献目録』 名古屋市防災会議地震対策専門委員会／編　名古屋市防災会議地震対策専門委員会　1978 年

濃尾地震に関する写真、絵が数多く収録されており、視覚的に被害状況を知ることができます。また、濃尾地震に関する様々な文献が記載されています。

📖『今もいきる、濃尾地震　マグニチュード８．０、日本史上最大の直下地震』　中部建設協会／編集　中

部建設協会　2011 年

濃尾地震の被害状況やその後の復興についての資料です。また、その他の大規模地震や震災対策について、写真などを用いてわかりやすく書かれています。

📖『震災記録　明治２４年１０月２８日』　愛知県警察部／編　愛知県総務部消防防災課　1973 年

被害状況や警察の活動について当時の愛知県警察がまとめた記録です。

📖『濃尾震誌』　片山逸朗／編　ブックショップ「マイタウン」　2002 年（復刻）

地震発生から１年３か月たった明治 26 年に岐阜県で発行された資料の復刻です。

📖『The great earthquake in Japan,1891.』　John Milne／著　W･K　Burton／写真　Lane,Crawford

「日本地震学の父」といわれるミルン氏と「近代日本上下水道の父」といわれるバルトン氏による濃尾地震の写真記録集です。バルトン氏はこの地震の２年後、名古屋市の委嘱を受けて上下水道の調査をしました。

◎東南海地震（1944 年 12 月 7 日）・三河地震（1945 年 1 月 13 日）

📖『地震体験記録集　関東大地震　東南海地震・三河地震』　愛知県総務部消防防災課／編　愛知県総務部消防防災課　1978 年

『濃尾地震生き証人の記録』　愛知県総務部／編　愛知県　1979 年

統計などにはあらわれない生の声を知ることができる体験談をまとめた資料です。

📖『三河地震　直下型地震の恐怖』　安城市歴史博物館／編集　安城市歴史博物館　2006 年

同名の展示会の図録です。東南海地震についても記述があります。被害状況の写真も数多く見ることができます。

📖『昭和 19 年 12 月 7 日東南海地震に関する踏査報告』　愛知県防災会議／編　愛知県　1975 年

戦時中で地震に関する調査が十分に行なわれず報告書が数少ないため、貴重な資料です。

📖『恐怖のＭ（マグニチュード）８　東南海、三河大地震の真相』　中日新聞社社会部／編　中日新聞本社　1983 年

地震が発生した当時、戦時下の情報統制により、詳しい実態が長い間わかっていませんでした。1982 年に見つかった震災記録を基に、取材執筆された中日新聞の連載を単行本化したものです。

📖『戦争に隠された「震度７」　1944 東南海地震・1945 三河地震』　木村玲欧／著　吉川弘文館　2014 年

東南海地震・三河地震の被害状況、当時の報道体制、体験談がまとめられています。中部日本新聞・朝日新聞（東京版）・読売報知新聞（東京版）の報道状況について、報道内容（記事見出し）の表が掲載されています。

３．全国の地震の歴史を調べる

📖『地震・噴火災害全史』　災害情報センター／編　日外アソシエーツ　2008 年

416 年から 2007 年までに日本で発生した地震・噴火災害、1,847 件の記録です。比較的、資料の豊富な 55 件に関しては、背景、概要、特徴等の解説があります。（愛知県に関する解説は、濃尾地震、東南海地震、三河地震、紀伊半島南東沖地震。）震源地とマグニチュード一覧があります。

📖『日本被害地震総覧　599-2012』　宇佐美竜夫／著　東京大学出版会　2013 年

599 年から 2012 年までに発生した約 900 件の被害地震についての記録です。震央地名、震源の緯度・

経度・規模・深さ、解説、参考文献などの記載があります。そのほか、震央分布図や地震・津波の統計、地震保険についても記述があります。

📖『わが国の歴史地震被害一覧表』　宇佐美竜夫／編著　日本電気協会　2010 年

599 年から 1984 年までの地震被害実数を見やすく使いやすいように一覧表にしたものです。表のなかにある「地震番号」は、📖『日本被害地震総覧　599-2012』の「地震番号」と同じものです。

📖『日本災害史事典　1868-2009』　日外アソシエーツ編集部／編　日外アソシエーツ　2010 年

明治元年から平成 21 年までに日本で発生した 4,557 件の大規模災害を発生順に記載しています。巻末に「災害別一覧」「都道府県別一覧」があります。死傷者数や被害規模がわかりますが、各地の震度はわかりません。

📖『気象年鑑』　気象業務支援センター／編　気象業務支援センター　年刊

1 年間に発生した主な地震（「マグニチュード 6.0 以上」、「被害を被った」、「震度 5 弱以上を観測した」のいずれかに該当するもの）の記録です。巻末に「地震災害年表」（684 年～）があり、マグニチュードや地域、被害状況がわかります。1968 年版から所蔵しています。

📖『理科年表』　国立天文台／編　丸善出版　年刊

「日本付近のおもな被害地震年代表」（416 年～）があり、震源地の北緯・東経やマグニチュード、被害状況がわかります。（選択基準は死者 1 名以上または家屋等の全壊（潰）1 以上または津波規模 1 以上。1885 年までは適用済み）「日本付近のおもな地震」として、マグニチュード 5 以上の地震の発生日時（秒単位）や緯度・経度、深さがわかります。地震関係公式諸表も各種記載があります。

📖『日本の地盤液状化履歴図』　若松加寿江／著　東海大学出版会　1991 年

416 年から 1990 年までの地震により発生した液状化の記録です。国土地理院発行の 5 万分の 1 地形図に液状化の履歴が書き込まれています。「液状化と地名について」などの解説もあります。

📖『日本被害津波総覧』　渡辺偉夫／著　東京大学出版会　1998 年

684 年から 1999 年までに地震により発生した津波の記録です。震央地名、マグニチュード、また著者による津波マグニチュード、その被害状況などがわかります。

🌏気象庁　各種データ・資料（http://www.jma.go.jp/jma/menu/menureport.html）

「震度データベース検索」（1919 年から 2 日前までの震度 1 以上を観測した地震を県別・観測地点別に検索ができる）などの様々な統計を調べることができます。

◇◆当時の新聞を見る◆◇

発生した当時の新聞からも情報が得られます。当館の新聞については、**パスファインダー「名古屋の新聞を調べる」**をご覧ください。

作成：名古屋市図書館（2025 年 3 月改訂）